

原稿

正本



「第一章」

ロマ書

一 キリスト、イエスの僕、召されて使徒となり、神の福音の
爲に選えらび別わかれたパウロ、この福音は神その預言者たち
により、聖書の中に預あめ御子に就つきて約やくし給たまひしなり。
御子みこは肉にくによれば、ダビデの裔すえより生うまれ、
ば、死人にんの復活ふくわつにより大能たいのうをもて神の子と定められ給たまへり、
即ち我らの主イエスキリストなり。我等その御名の爲に
万國よろよろのの人を信仰しんかうに従順しゆんふらしめんとて、彼より恩恵めぐみと使徒
の職しやくとを受けたり。我等もその中にありてイエスキリス
トのものとあらん爲に召めされたるなり。——われ書をロマ

聖書改譯原稿用紙

に在りて神に愛せられ召されて聖徒となりたる凡ての者に
 贈る。願くは我らの父なる神及び主イエス・キリストの恩
 恵と平安と汝らに在らんことを。

汝らの信仰全世界に言傳へられたれば、我まづ汝ら一

同の爲にイエスキリストによりて我が神に感謝す。その

御子の福音に於て我が靈をもて事ふる神は、我が絶えず祈

の中に汝らを覚え、如何にしてか御者に適ひ、いつか汝ら

に到るべき途を得んと、常に冀ふことを我が爲に證し給ふ

なり。われ汝らを見んことを切に望むは、汝らの堅うせら

れん爲に靈の賜物を分け與へんとてなり。即ち我なんぢ

三

1

平 子

孟

7

...

十九

一

十六

“

十七

子

...

聖書改譯原稿用紙

2

八

九

不

三

辛

れ

○

111

12

二

みつ

益

易

……
 匍は上も物ものにに似にた
 像がととななず

造物主

……べき者なり、アメン

高き者

五

云

三

六

元

三

三

の故に神は彼らを具の心の慾にまかせて、互にその身を辱

しむる汚穢に付し給へり。彼らは神の眞を易へて虚偽と

ふし、造物主を措きて造られたる物を拜し、かつ之に事ふ造

主は永遠に讃むべき者なり、之に由りて神は彼らを取

つべき慾に付し給へり、即ち女は順性の用を易へて逆性の

用となし、男もまた同じく女の順性の用を棄て、互に情

慾を熾し、男と男と恥づる事を行ひて、その迷に値すべき報

を已が身に受けたり。また神を心に存むるを善しとせざ

れば、神もその邪曲ある心の随に爲まじき事を爲るに任せ

給へり。即ちもろくの、不義、悪、慳貪、惡意にて満つる者、ま

聖書改譯原稿用紙

た嫉妬、殺意、紛争、詭計、惡念の溢るゝ者、謾言する者、謗る者、

神に憎まるゝ者、侮る者、傲る者、誇る者、惡事を企つる者、父母

に逆ふ者、無知、違約、無情、無慈悲なる者にして、斯る事ども

を行ふ者の死罪に當るべき神の定を知りながら、意に自ら

此等の事を行ふのみならず、また人の之を行ふを可しとせ

り。

「第二章」

一 然れば凡そ人を審く者よ、なんぢ言ひ通る、術なし、他の人を審くは、正しく己を罪するなり。人を審く汝も自ら回
二 い事を行へばなり。斯る事を行ふ者を罪する神の審判は
三 真理に合へりと我らは知る。斯る事を行ふ者を審きて自
四 己を行ふ人よ、なんぢ神の審判を逃れんと思ふか。神
五 仁慈、なんぢを悔改に導くを知らずして、その仁慈と忍耐と
六 寛容との豊なるを軽んずるか。なんぢ頑固と悔改めぬ心
七 とにより己の爲に神の怒を積み、その正しき審判の顯る
八 る怒の日に及ぶかり。神はおのの所作にしたがひて

聖書改譯原稿用紙

七 報い、耐忍びて善を行ひ、光榮と尊貴と朽ちざる事を求
八 むる者には永遠の生命をして報い、徒黨により真理に従
九 はずして不義に従ふ者には怒と憤恚とをして報い給はん。
十 すべて惡を行ふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも
十一 患難と苦難とあり、凡て善を行ふ人には、ユダヤ人を始め
十二 ギリシヤ人にも光榮と尊貴と平安とあらん。そは神には
十三 偏視給ふこと無ければなり。凡そ律法なくして罪を犯
十四 したる者は律法なくして滅び、律法ありて罪を犯したる者
十五 は律法によりて審かるべし。律法を聞くもの神の前に義
十六 たるにあらず、律法を行ふ者のみ義とせらるべし。律法

偏り視給ふ

また律法の町に
知識も真理
の式を有て
の手にて
の手にて

五

を有たぬ異邦人もし本性のまゝ、律法に載せたる所を行ふ
時は律法を有たずとも自から己が律法たるなり。即ち律

法の命ずる所のその心に録されたるを願し、己が良心もこ

れが證をなして、その思たがひに或は訴へ或は辯明す――

六

是わが福音に云へる如く神のキリスト、イエスによりて人

七

々の隠れたる事を審き給ふ日に成るべし。汝ユダヤ人と

八

稱へられ、律法に安んじ、神を誇り、その御旨を知り律法に

九

教へられて善惡を辨へ、また盲人の手引暗黒に在る者の

十

光明、愚なる者の守役、幼児の教師なりと自ら信する者よ、

十一

何ゆゑ人を教へて己を教へぬか、竊む勿れと宣べて自ら

聖書改譯原稿用紙

十二

竊むか、姦淫する勿れと言ひて姦淫するか、偶像を惡みて

十三

宮の物を奪ふか、律法に誇りて律法を破り神を辱しむる

十四

か。録して神の名は汝らの故によりて異邦人の中に漬さ

十五

るとあるが如し。なんぢ律法を守らば割禮は益あり、律法

十六

を破らば汝の割禮は無割禮とあるなり。割禮なき者も律

十七

法の義を守らば、その無割禮は割禮とせらるゝにあらずや。

十八

本性のまゝ、割禮なくして律法を全うする者は、儀文と割

十九

禮とありて律法を破る汝を審かん。それ表面のユダヤ人

二十

はユダヤ人たるにあらず、肉に在る表面の割禮は割禮たる

二十一

にあらず。隠ふるユダヤ人はユダヤ人なり、儀文によらず、靈

による心の割禮は割禮なり、その響は人よりにあらず神より來るなり。